



## 2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月8日

上場会社名 日本化薬株式会社

上場取引所 東

コード番号 4272 URL https://www.nipponkayaku.co.jp/

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 涌元 厚宏

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ経理本部 経理部長 (氏名) 川村 勉 (TEL) 03-6731-5842

四半期報告書提出予定日 2022年11月10日 配当支払開始予定日 2022年12月1日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	102,728	15.6	13,559	24.4	16,628	40.6	11,281	22.5
2022年3月期第2四半期	88,840	10.3	10,902	56.3	11,828	61.1	9,205	88.5

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 16,935百万円( 58.9%) 2022年3月期第2四半期 10,655百万円( 32.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	67.04	67.02
2022年3月期第2四半期	54.27	54.26

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	329,503	259,239	78.4
2022年3月期	315,459	246,425	77.8

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 258,208百万円 2022年3月期 245,479百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	15.00	—	25.00	40.00
2023年3月期	—	20.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	210,000	13.6	23,800	13.1	26,600	14.9	19,400	12.9	115.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年3月期2Q	170,503,570株	2022年3月期	170,503,570株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	2,170,940株	2022年3月期	2,257,985株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年3月期2Q	168,274,562株	2022年3月期2Q	169,638,661株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

2022年11月9日(水)に証券アナリスト及び機関投資家向けに決算説明会を開催する予定であります。使用する資料等は、当社ウェブサイトに掲載する予定であります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報)	11
(重要な後発事象)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年9月30日まで)の世界経済は、新型コロナウイルス感染症による影響からの正常化が見られた一方で、ロシアのウクライナ侵攻、燃料・資源高による世界的なインフレ進行、中国におけるゼロコロナ政策などにより一層不透明感が増しました。

このような状況の中、当社グループは本年度より新中期事業計画“**KAYAKU Vision 2025**”をスタートしました。事業ごとに定めた「ありたい姿=Vision」に向けたロードマップを実行するとともに、ありたい姿実現に向けて定めた全社重要課題に対し取り組みを進めています。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、医薬事業が前年同四半期を下回ったものの、機能化学品事業、セイフティシステムズ事業及びその他事業が前年同四半期を上回ったことにより1,027億2千8百万円となり、前年同四半期に比べ138億8千8百万円(15.6%)増加しました。

営業利益は、135億5千9百万円となり、前年同四半期に比べ26億5千7百万円(24.4%)増加しました。

経常利益は、為替差益により、166億2千8百万円となり、前年同四半期に比べ47億9千9百万円(40.6%)増加しました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、112億8千1百万円となり、前年同四半期に比べ20億7千5百万円(22.5%)増加しました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

#### 【機能化学品事業】

売上高は460億2千3百万円となり、前年同四半期に比べ84億1千万円(22.4%)増加しました。

機能性材料事業は、高速通信(5G)デバイスやIoTの普及、自動車の高度電装化等によるIT機器の需要増により、これらに使用される半導体関連部材となるエポキシ樹脂、MEMS等の複合材が好調に推移したことにより、機能性材料事業全体で前年同四半期を上回りました。

色素材料事業は、産業用インクジェットプリンタ用色素・インクの市況が回復基調にあることに加え、コンシューマ用インクジェットプリンタ用色素が堅調に推移したことにより、色素材料事業全体で前年同四半期を上回りました。

触媒事業は国内、輸出ともに受注が好調に推移したことにより前年同四半期を上回りました。

ポラテクノ事業は、染料系偏光フィルムの需要は低調に推移したものの、X線分析装置用部材が好調に推移したため、ポラテクノ事業全体で前年同四半期を上回りました。

セグメント利益は機能性材料事業、触媒事業の売上高が増加したことにより、78億3千8百万円となり、前年同四半期に比べ17億6千3百万円(29.0%)増加しました。

#### 【医薬事業】

売上高は253億3千4百万円となり、前年同四半期に比べ2億円(0.8%)減少しました。

国内向け製剤は、8月に血液がんに対する新薬「ダルビアス®点滴静注用」を上市し、ジェネリック抗がん薬「ペメトレキセド点滴静注液」、光線力学診断用剤「アラグリオ®顆粒剤分包」が伸長し、前年同四半期を上回りました。

国内向け原薬は、前年同四半期を上回ったものの、輸出、受託事業、診断薬は前年同四半期を下回りました。

セグメント利益は、45億1千2百万円となり、前年同四半期に比べ3億9千6百万円(9.6%)増加しました。

#### 【セイフティシステムズ事業】

売上高は267億4千2百万円となり、前年同四半期に比べ51億2千4百万円(23.7%)増加しました。

国内事業は、半導体不足等の影響による自動車の減産を受け需要が低調に推移したことにより、シートベルトプリテンショナー用マイクロガスジェネレータは前年同四半期を上回ったものの、エアバッグ用インフレーターは前年同四半期を下回り、国内事業全体で前年同四半期を下回りました。

海外事業は、半導体不足の影響を受ける一方で、各国の各種政策等により新型コロナウイルス感染症拡大の影響による世界的な需要低迷からの回復が続き、エアバッグ用インフレーター、シートベルトプリテンショナー

用マイクロガスジェネレータ、スクイブは前年同四半期を上回りました。

セグメント利益は需要の回復及び為替の影響による売上高の増加により、39億8千5百万円となり、前年同四半期に比べ8億1千6百万円(25.8%)増加しました。

#### 【その他】

売上高は46億2千8百万円となり、前年同四半期に比べ5億5千4百万円(13.6%)増加しました。

アグロ事業は国内、輸出ともに前年同四半期を上回り、アグロ事業全体で前年同四半期を上回りました。

不動産事業は、前年同四半期を上回りました。

セグメント利益は8億9千9百万円となり、前年同四半期に比べ1千9百万円(2.2%)減少しました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産、負債及び純資産の状況

総資産は3,295億3百万円となり、前連結会計年度末に比べ140億4千3百万円増加しました。主な増加は原材料及び貯蔵品67億7千5百万円、現金及び預金34億9千万円、商品及び製品29億8千3百万円であり、主な減少は有価証券27億7千4百万円であります。

負債は702億6千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ12億2千9百万円増加しました。主な増加は支払手形及び買掛金38億4百万円であり、主な減少は短期借入金11億6百万円であります。

純資産は2,592億3千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ128億1千3百万円増加しました。主な増加は為替換算調整勘定71億3千万円、利益剰余金70億7千3百万円であり、主な減少はその他有価証券評価差額金14億3千2百万円であります。

### ②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、120億3千5百万円の収入(前年同四半期は143億8千4百万円の収入)となりました。これは主に棚卸資産の増加額が84億4千1百万円、法人税等の支払額が38億5千3百万円あったものの、税金等調整前四半期純利益が164億4千5百万円、減価償却費が66億5千5百万円、売上債権の減少額が20億1千1百万円あったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、92億3千8百万円の支出(前年同四半期は55億7千3百万円の支出)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出が59億8千9百万円、投資有価証券の取得による支出が20億9千9百万円、有価証券の取得による支出が4億2百万円、定期預金の預入による支出が3億3千9百万円あったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、61億9千8百万円の支出(前年同四半期は63億9千7百万円の支出)となりました。これは主に配当金の支払額が41億9千8百万円、長期借入金の返済による支出が11億6千7百万円、短期借入金の純減少額が6億8千1百万円あったことによるものです。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ3億4千8百万円減少し、526億1千3百万円(前年同四半期は504億1千万円)となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の当社グループを取り巻く経営環境は、新型コロナウイルス感染症による影響からの更なる正常化が期待される一方で、ロシアのウクライナ侵攻、燃料・資源高による世界的なインフレ進行などにより景気の下振れリスクがあります。

このような状況において、当社グループは事業環境の変化に対応し、株主価値を高める経営資本の最適化を進め、グローバルな成長市場で既存ビジネスの拡大と新事業・新製品の展開を加速させ、収益の拡大を図ってまいります。

なお、2023年3月期の業績予想につきましては、2022年7月29日に公表いたしました予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	38,459	41,949
受取手形及び売掛金	60,719	60,100
電子記録債権	1,868	1,860
有価証券	15,186	12,411
商品及び製品	36,784	39,767
仕掛品	1,149	1,246
原材料及び貯蔵品	17,901	24,677
その他	3,832	5,563
貸倒引当金	△57	△56
流動資産合計	175,843	187,521
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	43,469	44,417
機械装置及び運搬具（純額）	26,923	27,424
その他（純額）	18,667	20,092
有形固定資産合計	89,060	91,934
無形固定資産		
のれん	3,016	2,779
その他	4,569	4,361
無形固定資産合計	7,586	7,141
投資その他の資産		
投資有価証券	33,511	33,410
退職給付に係る資産	4,572	4,682
その他	4,949	4,875
貸倒引当金	△63	△62
投資その他の資産合計	42,970	42,906
固定資産合計	139,616	141,981
資産合計	315,459	329,503

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,011	21,815
短期借入金	3,176	2,070
1年内償還予定の社債	4,000	4,000
未払金	9,617	9,524
未払法人税等	2,997	3,442
その他	7,956	7,087
流動負債合計	45,760	47,941
固定負債		
社債	8,000	8,000
長期借入金	1,474	824
退職給付に係る負債	380	413
その他	13,419	13,084
固定負債合計	23,273	22,322
負債合計	69,034	70,264
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	14,932	14,932
資本剰余金	15,759	15,785
利益剰余金	195,566	202,639
自己株式	△2,624	△2,523
株主資本合計	223,633	230,835
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,818	8,386
為替換算調整勘定	10,630	17,761
退職給付に係る調整累計額	1,396	1,224
その他の包括利益累計額合計	21,846	27,372
非支配株主持分	945	1,031
純資産合計	246,425	259,239
負債純資産合計	315,459	329,503

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	88,840	102,728
売上原価	57,622	66,988
売上総利益	31,218	35,740
販売費及び一般管理費	20,315	22,180
営業利益	10,902	13,559
営業外収益		
受取利息	63	231
受取配当金	544	510
持分法による投資利益	245	6
為替差益	-	2,114
その他	396	439
営業外収益合計	1,249	3,301
営業外費用		
支払利息	39	41
為替差損	122	-
その他	161	191
営業外費用合計	323	232
経常利益	11,828	16,628
特別利益		
固定資産売却益	1,372	31
投資有価証券売却益	81	-
特別利益合計	1,453	31
特別損失		
固定資産処分損	252	211
投資有価証券評価損	57	3
特別損失合計	309	214
税金等調整前四半期純利益	12,972	16,445
法人税、住民税及び事業税	3,225	4,456
法人税等調整額	495	664
法人税等合計	3,720	5,120
四半期純利益	9,251	11,324
非支配株主に帰属する四半期純利益	46	43
親会社株主に帰属する四半期純利益	9,205	11,281

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	9,251	11,324
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	120	△1,431
為替換算調整勘定	1,308	7,214
退職給付に係る調整額	△20	△173
持分法適用会社に対する持分相当額	△3	0
その他の包括利益合計	1,404	5,610
四半期包括利益	10,655	16,935
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,590	16,807
非支配株主に係る四半期包括利益	65	127

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	12,972	16,445
減価償却費	6,631	6,655
のれん償却額	265	272
引当金の増減額 (△は減少)	△88	△114
受取利息及び受取配当金	△607	△741
支払利息	39	41
為替差損益 (△は益)	△324	△1,570
持分法による投資損益 (△は益)	△245	△6
有形固定資産売却損益 (△は益)	△1,372	△31
有形固定資産処分損益 (△は益)	252	211
投資有価証券売却損益 (△は益)	△81	-
投資有価証券評価損益 (△は益)	57	3
売上債権の増減額 (△は増加)	4,870	2,011
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△8,129	△8,441
前払費用の増減額 (△は増加)	△233	△602
未収入金の増減額 (△は増加)	1,323	△593
前渡金の増減額 (△は増加)	14	△12
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,431	3,315
未払金の増減額 (△は減少)	△670	△387
未払費用の増減額 (△は減少)	△2	△348
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	15	17
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△164	△337
その他	△239	△851
小計	15,714	14,934
利息及び配当金の受取額	737	935
利息の支払額	△41	△38
法人税等の支払額	△2,096	△3,853
法人税等の還付額	70	56
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,384	12,035
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△19	△339
定期預金の払戻による収入	41	20
短期貸付けによる支出	-	△66
有形固定資産の取得による支出	△3,672	△5,989
有形固定資産の売却による収入	1,490	32
無形固定資産の取得による支出	△167	△151
有価証券の取得による支出	-	△402
投資有価証券の取得による支出	△49	△2,099
投資有価証券の売却による収入	112	15
投資有価証券の償還による収入	119	237
関係会社株式の取得による支出	△561	-
長期前払費用の取得による支出	△1,024	△221
固定資産撤去に伴う支出	△210	△277
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,628	-
その他	△4	4
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,573	△9,238

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	518	△681
長期借入金の返済による支出	△1,243	△1,167
自己株式の取得による支出	△3,000	△0
配当金の支払額	△2,553	△4,198
非支配株主への配当金の支払額	△26	△42
その他	△92	△108
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,397	△6,198
現金及び現金同等物に係る換算差額	514	3,053
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,926	△348
現金及び現金同等物の期首残高	47,483	52,962
現金及び現金同等物の四半期末残高	50,410	52,613

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

## (セグメント情報)

## I 前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	機能化学品 事業	医薬事業	セイフティ システムズ 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	37,612	25,534	21,618	84,765	4,074	88,840	—	88,840
セグメント間の内部売上 高又は振替高	71	0	—	71	51	123	△123	—
計	37,684	25,534	21,618	84,837	4,126	88,964	△123	88,840
セグメント利益	6,074	4,115	3,169	13,360	919	14,279	△3,376	10,902

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アグロ事業及び不動産事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△3,376百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,367百万円及びセグメント間取引消去△9百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「機能化学品事業」セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間に行われたテイクオーバーシステム株式会社の株式取得について、取得原価の配分が完了していなかったため、のれんの金額は暫定的に算出された金額でありましたが、当第2四半期連結会計期間に取得原価の配分が完了し、暫定的な会計処理が確定したため、のれんの金額を修正しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、976百万円であります。

## II 当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	機能化学品 事業	医薬事業	セイフティ システムズ 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	46,023	25,334	26,742	98,100	4,628	102,728	—	102,728
セグメント間の内部売上 高又は振替高	82	0	—	82	55	137	△137	—
計	46,105	25,334	26,742	98,182	4,684	102,866	△137	102,728
セグメント利益	7,838	4,512	3,985	16,336	899	17,235	△3,675	13,559

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アグロ事業及び不動産事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△3,675百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,690百万円及びセグメント間取引消去15百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(自己株式の取得について)

当社は、2022年11月8日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、下記のとおり自己株式取得に係る事項を決議いたしました。

1. 自己株式の取得を行う理由

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能にするため

2. 自己株式の取得に係る事項の内容

- |                |   |
|----------------|---|
| (1) 取得対象株式の種類  | 当社普通株式  |
| (2) 取得し得る株式の総数 | 3,000,000株(上限)<br>(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合1.78%) |
| (3) 株式の取得価額の総額 | 3,000百万円(上限)                                    |
| (4) 取得期間       | 2022年11月9日より2023年3月31日まで                        |
| (5) 取得方法       | 東京証券取引所における市場買付                                 |